



宮城県七ヶ浜町で支援活動が続ける「レスキューストックヤード(RSY)」のスタッフによる現地レポートを毎月お届けしていきます。RSYが総力を挙げて取り組む中、活動資金の不足は一番の課題です。みなさんの支援が息の長い活動を支え、被災者の復興の力になります。活動資金のサポートにぜひご協力ください!

## 「七ヶ浜の子ども達」

文：浦野 愛

東日本大震災から早3カ月が過ぎました。RSYが支援活動を展開している七ヶ浜町では、犠牲者98名、行方不明者6名、約500戸の家屋が流失しました。

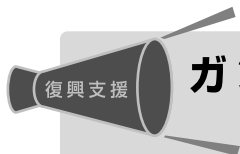
発災から約2週間後の3月25日、七ヶ浜町災害ボランティアセンターの設置主体であり、当法人の会員でもあった七ヶ浜町社会福祉協議会からの支援要請を受け、第1陣が現地に駆けつけました。

当時はガソリンの供給のままならず、外部から人・物の支援も届きにくかったため、発災から約1カ月は町内の中高生たちが中心となりボランティア活動にあたっていました。私たちは主に、災害ボランティアセンターの運営サポート、ボランティアのための炊き出し、避難所での足湯ボランティアの3つの支援活動を行いました。特に、東北地方の3月の凍てつく寒さの中では足湯ボランティアは大変喜ばれました。温かいお湯に足をつけながら、つかの間のボランティアとの会話は、被災された皆さんの固くこわばっていた心と体を自然と緩ませてくれたのか、震災当時の様子、避難所生活の苦悩、今後の生活への不安、ボランティアや地域の方々への感謝等、たくさんのお話を聞かせて下さいました。

避難所が解消された現在でも仮設住宅でこの活動は続いており、これまでにのべ1,000人以上の方にご利用いただいています。これらの活動には地元中高生も

参加してくれました。家や家族、大切な友達を失った子、体の弱いおばあちゃんを必死に高台へ避難させた子、襲いかかる津波を目の当たりにした子……一人ひとりの子ども達が抱える体験は、私たちの想像するに余りある程重く辛いものですが、「家にいるよりここに来た方が友達やいろんなボランティアさんに会えて楽しい」「町のために何か役に立てることをしたい」と多くの子ども達が足しげく通ってくれました。

現在は、他団体や大学生らの協力を得て「つながる遊び庭・子どもアートしちがはま」プロジェクトを立ち上げ、子ども達の笑顔や安らぎを取り戻すための活動を継続しています。



## ガンバレ! RSY ～応援メッセージ～

特定非営利活動法人ドリーム 事務局 西原晃代

私が浦野愛さんに出会ったのは2009年のことでした。ドリームは「脳卒中障害者の生きがいづくり」を支援する団体です。スタッフは障害があることですでに「災害時要援護者」になっています。脳卒中障害の特徴の説明に、真剣に耳を傾け、災害に備えるための必要事項などを提案してくれました。

レスキューストックヤードは市民活動ですが、そこで働く彼女たちはボランティアの私たちのように、他の職業を持っていません。ボランティア性は高いけれど、プロとして働く彼女たちの生活を守るために、何かできないかと考え、私は寄付をしました。この地域で大災害が起こった時、一番頼りになる団体であることは間違いありません。一つ一つの積み重ねが、未来の自分たちの安心へとつながっていくと思います。あなたも寄付をしませんか?



## 活動支援金 募集中!!

レスキューストックヤード

URL: <http://rsy-nagoya.com>

振込先：郵便振替

口座番号：00800-3-126026

加入者：特定非営利活動法人  
レスキューストックヤード

※通信欄に「寄付」とご記入ください。